

各 位

東京湾大感謝祭 2022 に出展 ～フェリーの積み付け業務の効率化を実現する「SNF Cargo Tablet App」を出展～

サクサグループのソリューション事業中核会社である株式会社システム・ケイ（本社：北海道札幌市 代表取締役 鳴海鼓大）は、東京九州フェリー株式会社（本社：福岡県北九州市 代表取締役社長 小笠原朗）と、10月15日（土）から10月16日（日）まで横浜港大さん橋ホールで開催される、東京湾大感謝祭2022（HP：<https://tokyobayfes.jp/>）の横須賀市ブースにて映像解析技術を活用した積み付けシステム「SNF Cargo Tablet App」導入事例を出展します。

AI × フェリー積み付け業務



得られる効果

車両誘導係 4人 → 2人

紙ベース報告業務をペーパーレス化
作業報告時間、残務処理の大幅軽減
人的ミスの軽減を実現しました。

フェリー積み付け業務の抱える課題

①紙ベースの複雑なフェリー積み付け業務指示

船内では、例えば、最大積載数約 80 台・フロア数 2 階のフェリーが、出入り口が 1 方向という条件の中で複数の港に寄港しながら貨物の積み付け方を実施すると膨大な作業指示が積み付け作業中に出ます。それら膨大な作業指示の中から、積み降ろし作業時に安全に作業できる船内スペースを確保することなどの制約条件を満たした積み付け作業を実施することは非常に複雑になっているが、それら全てを紙ベースで業務を実施しております。



②既存の車両ナンバー認識システムでは実現不可能

フェリー移動などを挟む大型トレーラーは、積み地と卸し地の港で別々のトラクターヘッドが移動を担う為、貨物部が連結器で繋がる大型トレーラーの場合は、牽引されるトレーラー（貨物部）には、全く別のナンバープレートが付いている既存の車両ナンバーシステムでは後部のナンバープレート（番号）を認識するシステムは存在しませんでした。

映像解析システム概要

- ①社内システムから積み付ける貨物情報を取得
- ②車両ナンバー情報を読み取り現場作業員タブレットに共有
- ③現場スタッフはタブレットを操作し積み付け情報を入力
- ④本部にリアルタイムで積み付け情報や作業進捗を共有



導入効果

このシステムを新たに横須賀と新門司を結ぶ東京九州フェリーに活用することにより、積み付けスタッフが4人から2人で削減でき、さらに本部への作業報告時間を30%削減に成功し、紙ベースで実施していた業務による作業報告ミスもなくなりました。東京九州フェリーとシステム・ケイは今後、運用の中でさらなるシステムのレベルアップを目指し、更なる効率化や本船の運航効率の向上を実現し、DXの側面から、フェリー輸送事業における業務の効率化を図り、SDGs 貢献を目指します。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社システム・ケイ 映像事業本部 代表ダイヤル TEL : 011-299-4416

<報道機関からのお問い合わせ>

株式会社システム・ケイ 映像事業本部 : 高木 (たかぎ) TEL : 011-299-4416

サクサホールディングス株式会社 企画部 : 蓬田 (よもぎだ) TEL : 03-5791-5586